

## 9 JABABEKA 工業団地訪問

訪問日：11月23日（金）8：40～9：30

対応者：Research & Development Advisor, 有本 堯史郎 氏

### 1 JABABEKA 工業団地の概要

ジャカルタから東へ約40km、タンジュンプリオク港から約70kmの西ジャワ州に位置するインドネシア初の民間資本の工業団地（全体面積：5,600ha）。約30カ国、1,500社の企業が入居し、日系企業は約110社入居している。

（地場企業が51%、韓国系11%、日系7%、その他アセアン諸国・台湾系が入居）二輪、四輪車の部品工業が集積しつつある。



有本 氏（右）

民営の発電所が2か所あり電力の安定供給が可能、また安価に対応できる熱源として、天然ガス配管もある。浄水・污水处理施設も各2か所あり。

標準工場（土地・建物）の販売またはレンタル、連棟タイプ工場など企業のニーズに合わせた様々なタイプの工場がある。道路事情が問題であり、政府のプロジェクトとして道路整備、鉄道での輸送を進めている。

### 2 居住環境等の整備・提供

学園地区には幼稚園～中学校、大学や技術専門学校等を整備。各種政府関係機関の誘致のほか、ゴルフ場等レクリエーション施設や百貨店などの商業施設、映画館、ホテル、病院、老人ホームの建設など街づくりとしての開発を進めている。

地域と連携した保安・防災安全管理組織を設立したほか、軍・警察の地域本部を誘致しており、警備や人材調達などの相談も受付けている。

### 3 ジャカルタ近郊の工業団地の状況

日系企業は丸紅や伊藤忠商事が開発した日系の工業団地への入居希望が多いが、現状では空きがない状況となっている。土地の供給不足状態であり、この2年半で約3倍の価格になっている。工場立地の選定条件としては、顧客との立地関係、インフラ整備、安全・保安リスク対応、従業員の生活利便性、土地の将来価値などを総合的な検討が必要。

### 4 インドネシア市場の状況

国内消費市場を中心として安定した経済成長を続けており、飲料・家庭用品など市場ターゲットとした企業も進出している。韓国（IT産業）、ドイツ（工業技術）などからの進出も増加している。若年人口・労働力が豊富なおよび、今後中間層の所得増加に伴い、国内旅行などによる航空需要や家電製品への需要が見込まれる。長年の日本からの資金援助等により、親日的な市場である。

【文責：堺市 藤原 真由美】

## 10 PT. YASUFUKU 社（二輪・四輪ゴム部品）

訪問日：11月23日（金）9：40～10：30

対応者：副社長 安福 卓也 氏

### 1 訪問先の概要について

神戸に本社を置くヤスフクゴム工業のインドネシア工場。日本国内では浜松に工場を持っている。インドネシア工場では、主に二輪向けのゴム製品を製造している。



YASUFUKU 社の工場門

### 2 PT. YASUFUKU 社について

PT.YASUFUKU 社は、ヤスフクゴム工業の海外進出第2番目の工場であり、1995年に進出してきた。第1番目の工場は北米・ネブラスカにある。その他、ジョージア州の北米第2工場、ベトナム、ブラジル、タイに工場を稼働予定。北米以外は二輪向けの部品を生産。

### 3 インドネシア国内の二輪・四輪等の売れ行きなどについて

インドネシアではここ10年間で二輪の市場が膨らんできている。2010-11年がピークで800万台市場となっている。2012年は700万台規模とやや下火になっているが、これはリーマンショック以降、ローンの焦げ付きなどがあったため政府が金融を引き締めた結果、新規ローンが組めずに購入台数に影響が出ているものである。2012年の車の生産台数は110万台見込みで、これはタイの生産台数（200万台）の半数を超えている。

二輪車の売れ筋は、ホンダ・カブからスクーターやスポーツタイプのバイクへ移行してきている。当社はカブ向けの部品生産を受注しているため、仕事が減ってきている。また、中間層が車を買いはじめてもいる。ヤマハ向けの部品受注も多く、国内からの輸送で間に合わない部分をこちらで製造している。

### 4 労働問題について

ここ数年、労働問題が顕著になってきている。当社の労働者も昨年5月にできた労働組合（金属加工組合）に加入している。2009年に安福氏が現地に赴任した際の労使交渉は簡単なものだったが、組合結成後は労使交渉がなかなかまとまらず、デモなど実行的な行動に移ってきた。また、少しでも無理なお願いをすると、跳ね返りが強く製品の品質が落ちる、欠勤率も高くなるなど、Quality Cost Delivery すべてに影響が出るようになってきている。新たに労働協約を締結する必要があるが、なかなかまとまらず現在コンサルタントを間に入れて調整している。組合側も少し対応を軟化してきている。

### 5 所感

PT.YASUFUKU 社をはじめとする自動車関連サプライヤーがインドネシアに進出するに至った経緯や、現在の労使交渉等の問題点をわかりやすく解説していただいたのはよかった。デモの発生など日本の中小企業がインドネシアに進出する際には気をつけないといけない問題なのだという印象を受けた。

【文責：北九州市 宮崎 朋彦】

## 11 KMK PLASTICS 社（オーディオ・家電部品）

訪問日：11月23日（金）11：00～12：00

対応者：President Director 高橋 誠 氏

ジャカルタ市南部から東に延びる高速道路沿いには工業団地群が連なっている。その中の一つである JABABEKA 工業団地の Phase 1 開発工区に、KMK PLASTICS 社は位置している。

KMK PLASTICS 社は、プラスチック部品・二次加工並びに組立品の製造販売を行っている。また、プラスチック金型の設計、製造・販売、及び、金型変更・修理も行う。従業員数は約 1,000 人であり、うち 400 人弱が契約社員である（2012 年 8 月現在）。

高橋氏によれば、タイの洪水や東日本大震災などを契機にサプライチェーン分散化の動きがあり、自動車部品メーカーのインドネシア進出が増えている。一方で、労働問題が拡大しつつある。労働組合が賃上げや正規雇用化を求めてデモを頻繁に行っており、2013 年の最低賃金は 40% 程度上がった。2014 年に大統領選があるため、政治家は労働者の主張を認める傾向にある。また、労働力は豊富な反面、マネジメント人材が不足しており、進出する企業の悩みとなっている。

事務所に併設されている工場を見学した。

### 【金型メンテナンス区画】

空間の中央に手作業を行うスペースがあり、作業員は手作業で金型をメンテナンスしていた。壁側に加工を行う機械が配置されていた。



金型のメンテナンス

### 【礼拝スペース】

イスラム教徒のために礼拝の時間を定めているわけではない。ただ、工場の一角に礼拝用スペースがあり、自由に礼拝してよい。

### 【プラスチック加工区画】

中央の通路を挟んで、左右に 7 台ずつ機械が並んでいる。プラスチックの射出成形を行っていた。



プラスチックの射出成形機械

### 【妊娠している女性従業員の作業スペース】

工具は基本的に立ち作業を行っているが、妊婦は座っての作業となる。工場では、工員の 75% が女性であり、常時 10 人から 15 人の妊婦が働いている。



妊婦の作業場

### 【ピアノ部品加工区画】

日本のピアノメーカー向けに、プラスチック製のピアノ鍵盤を作成していた。

【文責：佐賀県 江口 健二郎】